

様式第2号の1-②【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の1-①を用いること。

学校名	J A P A Nサッカーカレッジ
設置者名	学校法人 国際総合学園

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

課程名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数又は授業時数	省令で定める基準単位数又は授業時数	配置困難
文化・教養専門課程	サッカー専攻科	夜・通信	512 時間	240 時間	
	女子サッカー専攻科	夜・通信	512 時間	160 時間	
	サッカートレーナー専攻科	夜・通信	768 時間	240 時間	
	マネージャー・トレーナー科	夜・通信	432 時間	160 時間	
	サッカー研究科	夜・通信	512 時間	80 時間	
	サッカービジネス科	夜・通信	192 時間	160 時間	
	コーチ・審判専攻科	夜・通信	256 時間	160 時間	
	サッカーコーチ研究科	夜・通信	384 時間	320 時間	
(備考)					

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

学校 HP 上で公表 <a href="http://www.cupsnet.com/pdf/202006workexperson.pdf">http://www.cupsnet.com/pdf/202006workexperson.pdf</a>
--

### 3. 要件を満たすことが困難である学科

学科名	留学生サッカー科
(困難である理由)	在籍する学生の全てが留学生であり日本国籍を有していないため。

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	J A P A Nサッカーカレッジ
設置者名	学校法人 国際総合学園

1. 理事（役員）名簿の公表方法

学校 HP 上で公表 <a href="http://www.cupsnet.com/pdf/202006officerlist.pdf">http://www.cupsnet.com/pdf/202006officerlist.pdf</a>
--

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	団体職員	2019年6月1日～ 2023年5月31日	政策的観点
非常勤	会社役員	2019年6月1日～ 2023年5月31日	教育統括的観点
非常勤	大学教授	2019年6月1日～ 2023年5月31日	教育統括的観点
非常勤	団体職員	2020年3月31日～ 2023年5月31日	政策的観点
(備考)			

様式第 2 号の 3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名 (学部等名)	J A P A Nサッカーカレッジ (全学科)
設置者名	学校法人 国際総合学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

<p>1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。</p>	
<p>(授業計画の作成・公表に係る取組の概要)</p> <p>学生が、各授業科目の授業方法および授業内容ならびに1年間の授業計画をあらかじめ把握できるよう、各科目担当者が、各授業科目の詳細な授業計画を作成する。また成績評価基準についても客観性および厳格性を確保するため、授業計画を通して学生に対してその基準をあらかじめ明示する。</p> <p>具体的には、科目名、担当教員名、実務授業の有無、対象学科、対象学年、開講時期、必修・選択、単位数、時間数、授業概要、目的、授業の進め方、学習目標(到達目標)、テキスト・教材・参考図書・その他資料、授業回数、各回の授業項目・内容、学習方法・準備学習、評価方法・成績評価基準、履修上の注意事項、実務経験教員の経歴(有・無)を明示した授業計画を作成する。</p> <p>なお、各科目担当者が各授業科目の詳細な授業計画を作成後、各学科主任および教務部長、学校長が記載内容を確認した上で学生へ公表すると共に、学校 HP 上に公開する。</p> <p>授業計画作成時期：前年度3月                  授業計画公表時期：在校生においては当該年度4月(オリエンテーション時)に公表。                  学校 HP には当該年度5月～6月頃公開。</p>	
授業計画の公表方法	学校 HP 上で公表 <a href="http://www.cupsnet.com/pdf/202006cupsteachingplan.pdf">http://www.cupsnet.com/pdf/202006cupsteachingplan.pdf</a>
<p>2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。</p>	
<p>(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)</p> <p>各授業科目において、出席率・授業態度・取組姿勢・提出物・レポート・実技試験を相対的に評価している。出席率や授業態度、取組姿勢等の日常における状況については、毎週開催される各学科会議において議題としてあげ、学科内教員で情報を共有し、多方面から指導を行なう。(学科会議事録を全教員へ配信し共有する)</p> <p>成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。なおD評価は不合格となるため、追試験が課せられる。また、各授業科目において出席率が80%以下の場合にはH評価(保留)となる。D評価もしくはH評価の科目のある学生は卒業・進級判定会議にて審議される。</p>	

<p>3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。</p> <p>(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>学科ごとに履修科目の成績評価を点数化(100点満点)し、全科目の合計点の平均を算出したものを客観的な指標としている。なお今後はGPAを採用し、成績の分布を表すことを学内で検討している。(添付資料参照)</p>	
<p>客観的な指標の算出方法の公表方法</p>	<p>学校HP上で公表</p> <p><a href="http://www.cupsnet.com/pdf/202006objindicator.pdf">http://www.cupsnet.com/pdf/202006objindicator.pdf</a></p>
<p>4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。</p> <p>(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>各授業科目においてD評価もしくはH評価の科目については、その科目の単位は取得不可となるため、卒業・進級判定会議にて審議し、補講および追試験を実施する場合があるが、当校では進級基準・卒業基準共に、「必要科目の単位を全て取得していること」が基準要件として設定されているため、最終的にC評価以上の成績にならない場合は留級が決定する。なお、卒業・進級の認定に関する方針等は学校HP上に公開している。</p>	
<p>卒業の認定に関する方針の公表方法</p>	<p>学校HP上に公開</p> <p><a href="http://www.cupsnet.com/pdf/202006grasses.pdf">http://www.cupsnet.com/pdf/202006grasses.pdf</a></p>

様式第2号の4-②【(4)財務・経営情報の公表（専門学校）】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の4-①を用いること。

学校名	J A P A Nサッカーカレッジ
設置者名	学校法人 国際総合学園

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	<a href="http://www.cupsnet.com/pdf/h28_clrp04.pdf">http://www.cupsnet.com/pdf/h28_clrp04.pdf</a>
収支計算書又は損益計算書	<a href="http://www.cupsnet.com/pdf/h28_clrp02.pdf">http://www.cupsnet.com/pdf/h28_clrp02.pdf</a>
財産目録	<a href="http://www.cupsnet.com/pdf/h28_clrp03.pdf">http://www.cupsnet.com/pdf/h28_clrp03.pdf</a>
事業報告書	<a href="http://www.cupsnet.com/pdf/h28_clrp01.pdf">http://www.cupsnet.com/pdf/h28_clrp01.pdf</a>
監事による監査報告（書）	<a href="http://www.cupsnet.com/pdf/h28_clrp05.pdf">http://www.cupsnet.com/pdf/h28_clrp05.pdf</a>

2. 教育活動に係る情報

①学科等の情報

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
文化・教養		文化・教養専門課程	サッカー専攻科	平成15年文部科学省告示第14号	—		
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
3年	昼	3344時間	688時間	0時間	608時間	0時間	2048時間
			3344単位時間				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
130人		84人	0人	6人	6人	12人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要） <b>■3年間を通して指導者ライセンス保有者による指導を受け、技術・戦術・体力の強化を図る。また、Jリーグクラブであるアルビレックス新潟のアマチュア育成組織として、実際にプロクラブの指導者から技術・戦術を学び、経験を積むことで卒業後に即戦力となる人材を育成することを目的としカリキュラムを構築している。なお、サッカー実技の授業が中心になってくるが、サッカー専門科目および一般教養科目においては講義形式での授業も実施し、サッカー選手としてだけでなく一社会人としての人間力向上および教養を身につける。</b>
成績評価の基準・方法
（概要） <b>■各授業科目において、出席率・授業態度・取組姿勢・提出物・レポート・実技試験を相対的に評価する。</b> <b>■成績評価基準は、A(優：80点以上)・B(良：70点以上)・C(可：60点以上)・D(不可：59点以下)とする。なおD評価は不可（不合格）となるため、追試験が課せられる。</b> <b>■各授業科目において出席率が80%以下の場合にはH評価（保留）となる。</b>

卒業・進級の認定基準
(概要) <b>■進級あるいは卒業を認定するためには以下の要件を全て満たしている必要がある。</b> 1) 出席率 進級基準：各学期の用出席時間数の80%以上（各教科）出席していること 卒業基準：各学科の用出席時間数の80%以上（各教科）出席していること 2) 単位取得基準 進級基準：一年間の必要科目の単位を全て取得していること 卒業基準：各学科の必要科目の単位を全て取得していること
学修支援等
(概要) <b>■クラス担任制</b> <b>■クラス担任以外の教員による面談等を実施（副任・学科主任等）</b> <b>■保護者との連携構築（保護者宛に活動報告書を送付、電話連絡等）</b> <b>■スクールカウンセラーによるカウンセリング制度</b>

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
17人 (100%)	2人 (11.8%)	13人 (76.5%)	2人 (11.8%)
(主な就職、業界等) <b>■サッカー業界（選手・指導者）</b> <b>■公務員</b> <b>■一般企業</b>			
(就職指導内容) <b>■求人情報提供</b> <b>■就職面談実施</b> <b>■就職試験対策実施（筆記試験対策・面接試験対策）</b>			
(主な学修成果（資格・検定等）) <b>■日本サッカー協会公認C級コーチライセンス</b>			
(備考)（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
83人	17人	20.5%
(中途退学の主な理由) <b>■経済的理由・身体的理由（病気・怪我・精神的）・進路変更等</b>		
(中退防止・中退者支援のための取組) <b>■個人面談を定期的実施</b> <b>■保護者との連携（電話連絡等）</b> <b>■学科ミーティングで学生状況を全体で共有（議事録作成）</b>		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
文化・教養		文化・教養専門課程	女子サッカー専攻科	平成 26 年文部科学省告示第 13 号	—		
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2 年	昼	2272 時間	400 時間	0 時間	368 時間	0 時間	1504 時間
			2272 単位時間				
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
15 人	3 人	0 人	3 人	5 人	8 人		

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
<p>（概要）</p> <p>■2年間を通して指導者ライセンス保有者による指導を受け、技術・戦術・体力の強化を図る。また、Jリーグクラブであるアルビレックス新潟のアマチュア育成組織として、実際にプロクラブの指導者から技術・戦術を学び、経験を積むことで卒業後に即戦力となる人材を育成することを目的としカリキュラムを構築している。なお、サッカー実技の授業が中心になってくるが、サッカー専門科目および一般教養科目においては講義形式での授業も実施し、サッカー選手としてだけでなく一社会人としての人間力向上および教養を身につける。</p>
成績評価の基準・方法
<p>（概要）</p> <p>■各授業科目において、出席率・授業態度・取組姿勢・提出物・レポート・実技試験を相対的に評価する。</p> <p>■成績評価基準は、A(優：80点以上)・B(良：70点以上)・C(可：60点以上)・D(不可：59点以下)とする。なおD評価は不可（不合格）となるため、追試験が課せられる。</p> <p>■各授業科目において出席率が80%以下の場合にはH評価（保留）となる。</p>
卒業・進級の認定基準
<p>（概要）</p> <p>■進級あるいは卒業を認定するためには以下の要件を全て満たしている必要がある。</p> <p>1) 出席率 進級基準：各学期の用出席時間数の80%以上（各教科）出席していること 卒業基準：各学科の用出席時間数の80%以上（各教科）出席していること</p> <p>2) 単位取得基準 進級基準：一年間の必要科目の単位を全て取得していること 卒業基準：各学科の必要科目の単位を全て取得していること</p>
学修支援等
<p>（概要）</p> <p>■クラス担任制</p> <p>■クラス担任以外の教員による面談等を実施（副任・学科主任等）</p> <p>■保護者との連携構築（保護者宛に活動報告書を送付、電話連絡等）</p> <p>■スクールカウンセラーによるカウンセリング制度</p>

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
1人 (100%)	0人 (0%)	1人 (100%)	0人 (0%)
(主な就職、業界等) <b>■サッカー業界</b>			
(就職指導内容) <b>■求人情報提供</b> <b>■就職面談実施</b> <b>■就職試験対策実施（筆記試験対策・面接試験対策）</b>			
(主な学修成果（資格・検定等）) <b>■日本サッカー協会公認キッズリーダーALL</b>			
(備考)（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
3人	0人	0%
(中途退学の主な理由)		
(中退防止・中退者支援のための取組) <b>■個人面談を定期的実施</b> <b>■保護者との連携（電話連絡等）</b> <b>■学科ミーティングで学生状況を全体で共有（議事録作成）</b>		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
文化・教養		文化・教養専門課程	サッカートレーナー 専攻科	平成 17 年文 部科学省告 示第 30 号	—		
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
3 年	昼	3320 時間	704 時間	0 時間	2208 時間	0 時間	408 時間
			3320 単位時間				
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
25 人	15 人	0 人	2 人	2 人	4 人		

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
<p>（概要）</p> <p>■Jリーグのトレーナーは一般的に、フィジカルコーチ、鍼灸師、アスレティックトレーナーが存在する。膨大な勉強量が必要となる難関資格をいきなり目指すわけではなく、入学してから方向性を決められるバランス型カリキュラムを実現している。即戦力としてのスキルを磨くため、サッカー専攻科や女子サッカー専攻科のチームに帯同し、年間を通じて選手をサポートするほか、トレーニングやリハビリを担当するなど豊富な実習量を積むことができる。また J リーグクラブであるアルビレックス新潟のアマチュア育成組織として、アルビレックス新潟アカデミーでのトレーナー実習も組み込まれており、在学中からプロトレーナーを間近に感じられる。そのほか、NSG カレッジリーグの 1 つである国際メディカル専門学校鍼灸学科（夜間部）を受験し合格した学生については、「鍼灸ダブルスクールコース」の選択が可能となる。また、トレーナーとしてだけでなく一社会人としての人間力を講義・実習を通して向上させ、教養を身につける。</p>
成績評価の基準・方法
<p>（概要）</p> <p>■各授業科目において、出席率・授業態度・取組姿勢・提出物・レポート・実技試験を相対的に評価する。</p> <p>■成績評価基準は、A(優：80 点以上)・B(良：70 点以上)・C(可：60 点以上)・D(不可：59 点以下)とする。なお D 評価は不可（不合格）となるため、追試験が課せられる。</p> <p>■各授業科目において出席率が 80%以下の場合には H 評価（保留）となる。</p>
卒業・進級の認定基準
<p>（概要）</p> <p>■進級あるいは卒業を認定するためには以下の要件を全て満たしている必要がある。</p> <p>1) 出席率 進級基準：各学期の用出席時間数の 80%以上（各教科）出席していること 卒業基準：各学科の用出席時間数の 80%以上（各教科）出席していること</p> <p>2) 単位取得基準 進級基準：一年間の必要科目の単位を全て取得していること 卒業基準：各学科の必要科目の単位を全て取得していること</p>
学修支援等
<p>（概要）</p> <p>■クラス担任制</p> <p>■クラス担任以外の教員による面談等を実施（副任・学科主任等）</p>

<ul style="list-style-type: none"> <li>■保護者との連携構築（保護者宛に活動報告書を送付、電話連絡等）</li> <li>■スクールカウンセラーによるカウンセリング制度</li> </ul>
--

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
2人 (100%)	1人 (50%)	1人 (50%)	0人 (0%)
(主な就職、業界等) ■一般企業			
(就職指導内容) ■求人情報提供 ■就職面談実施 ■就職試験対策実施（筆記試験対策・面接試験対策）			
(主な学修成果（資格・検定等）) ■日本SAQ協会レベル1インストラクター			
(備考)（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
7人	2人	28.6%
(中途退学の主な理由) ■健康上の理由		
(中退防止・中退者支援のための取組) ■個人面談を定期的実施 ■保護者との連携（電話連絡等） ■学科ミーティングで学生状況を全体で共有（議事録作成）		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
文化・教養		文化・教養専門課程	マネージャー・トレーナー科	平成 28 年文部科学省告示第 18 号	—		
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2 年	昼	2320 時間	448 時間	192 時間	1616 時間	0 時間	64 時間
			2320 単位時間				
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
60 人	66 人	0 人	3 人	5 人	8 人		

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要） <b>■</b> 用具管理、スパイク管理、選手のスケジュール管理、ユニフォーム管理などチーム活動を円滑に進めるために幅広い業務を実習・講義を通して学び、養っていく。特に J3 クラブや JFL クラブなどのチームは、トレーナーやフロントを兼務するなど様々な能力が求められるため、マルチなマネージャーとしてサッカー界で活躍できる人材育成を目指すためのカリキュラムを構築する。スピードや正確さなど実践経験が最重要視される業界であり、効率的に即戦力スキルを磨くためサッカー専攻科や女子サッカー専攻科／研究科、さらには男女ともにインターハイ・全国選手権大会に出場経験のある強豪、開志学園 JSC 高等部（JAPAN サッカーカレッジ高等部）のチームに帯同し、年間を通じて選手・チームをサポートし経験を積む。また、マネージャーとしてだけでなく一社会人としての人間力を講義・実習を通して向上させ、教養を身につける。
成績評価の基準・方法
（概要） <b>■</b> 各授業科目において、出席率・授業態度・取組姿勢・提出物・レポート・実技試験を相対的に評価する。 <b>■</b> 成績評価基準は、A(優：80 点以上)・B(良：70 点以上)・C(可：60 点以上)・D(不可：59 点以下)とする。なお D 評価は不可（不合格）となるため、追試験が課せられる。 <b>■</b> 各授業科目において出席率が 80%以下の場合には H 評価（保留）となる。
卒業・進級の認定基準
（概要） <b>■</b> 進級あるいは卒業を認定するためには以下の要件を全て満たしている必要がある。 1) 出席率 進級基準：各学期の用出席時間数の 80%以上（各教科）出席していること 卒業基準：各学科の用出席時間数の 80%以上（各教科）出席していること 2) 単位取得基準 進級基準：一年間の必要科目の単位を全て取得していること 卒業基準：各学科の必要科目の単位を全て取得していること
学修支援等
（概要） <b>■</b> クラス担任制 <b>■</b> クラス担任以外の教員による面談等を実施（副任・学科主任等） <b>■</b> 保護者との連携構築（保護者宛に活動報告書を送付、電話連絡等）

■スクールカウンセラーによるカウンセリング制度

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
23人 (100%)	0人 (0%)	23人 (100%)	0人 (0%)
(主な就職、業界等)			
■プロサッカークラブ			
■一般企業			
(就職指導内容)			
■求人情報提供			
■就職面談実施			
■就職試験対策実施（筆記試験対策・面接試験対策）			
(主な学修成果（資格・検定等））			
■スポーツシューフィッター			
(備考)（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
59人	1人	1.7%
(中途退学の主な理由)		
■精神疾患による		
(中退防止・中退者支援のための取組)		
■個人面談を定期的実施		
■保護者との連携（電話連絡等）		
■学科ミーティングで学生状況を全体で共有（議事録作成）		

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士			
文化・教養	文化・教養専門課程	サッカー研究科	—	—			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
1年	昼	1408 時間	480 時間	0 時間	224 時間	0 時間	704 時間
			1408 単位時間				
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
20人	17人	2人	3人	5人	8人		

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
<p>（概要）</p> <p>■サッカー研究としては、北信越フットボールリーグ（男子／女子）、天皇杯（男子）、皇后杯（女子）、全国社会人サッカー選手権大会（男子）など、全国で戦うチームにて大舞台を経験することができる。また、Jリーグクラブとのトレーニングマッチや、2部練習などサッカーに集中した環境で強化し、全国で戦えるプレイヤー育成を目指す。また、コーチ研究としては、アルビレックス新潟スクールや JAPAN サッカーカレッジなどにアシスタントコーチとして実習経験を積み、相手チームの分析、データ管理、技術戦術理解など指導者として不可欠となる分析方法などを身につけながら実際の現場で実践する。トレーナー研究としては、外部チームにトレーナーとして派遣し、より高いレベルで選手個々に適したトレーニングプログラムを作成、実施することで効果的なノウハウを身につける。</p>
成績評価の基準・方法
<p>（概要）</p> <p>■各授業科目において、出席率・授業態度・取組姿勢・提出物・レポート・実技試験を相対的に評価する。</p> <p>■成績評価基準は、A(優：80点以上)・B(良：70点以上)・C(可：60点以上)・D(不可：59点以下)とする。なおD評価は不可（不合格）となるため、追試験が課せられる。</p> <p>■各授業科目において出席率が80%以下の場合にはH評価（保留）となる。</p>
卒業・進級の認定基準
<p>（概要）</p> <p>■進級あるいは卒業を認定するためには以下の要件を全て満たしている必要がある。</p> <p>1) 出席率 進級基準：各学期の用出席時間数の80%以上（各教科）出席していること 卒業基準：各学科の用出席時間数の80%以上（各教科）出席していること</p> <p>2) 単位取得基準 進級基準：一年間の必要科目の単位を全て取得していること 卒業基準：各学科の必要科目の単位を全て取得していること</p>
学修支援等
<p>（概要）</p> <p>■クラス担任制</p> <p>■クラス担任以外の教員による面談等を実施（副任・学科主任等）</p> <p>■保護者との連携構築（保護者宛に活動報告書を送付、電話連絡等）</p> <p>■スクールカウンセラーによるカウンセリング制度</p>

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
15人 (100%)	4人 (26.7%)	10人 (66.7%)	1人 (6.7%)
(主な就職、業界等) ■プロサッカークラブ ■一般企業			
(就職指導内容) ■求人情報提供 ■就職面談実施 ■就職試験対策実施（筆記試験対策・面接試験対策）			
(主な学修成果（資格・検定等）) ■日本サッカー協会C級コーチライセンス			
(備考)（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
18人	3人	16.7%
(中途退学の主な理由) ■進路変更		
(中退防止・中退者支援のための取組) ■個人面談を定期的実施 ■保護者との連携（電話連絡等） ■学科ミーティングで学生状況を全体で共有（議事録作成）		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
文化・教養		文化・教養専門課程	サッカービジネス科	平成 19 年文部科学省告示第 20 号	—		
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2 年	昼	1920 時間	688 時間	0 時間	1168 時間	0 時間	64 時間
			1920 単位時間				
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
70 人	57 人	0 人	3 人	3 人	6 人		

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)
(概要) <b>■</b> スポーツビジネスの最前線で活躍する外部講師を招く「スポーツマネジメント論」や「アルビレックス新潟クラブ経営実践論」、国内・海外での研修会を通じ、スポーツビジネスの最新情報や最先端の事例を学ぶことができる。また、Jリーグトップクラスの集客率、総合型地域スポーツクラブの実現しているアルビレックス新潟から、授業と実習を通して直接ノウハウを学ぶことができる。公式試合の運営やイベントの企画・運営、チームのマネジメントから、スポンサー獲得、広報活動、経理、財務、事務まで、クラブ運営に必要な仕事全般を学び、多様性があり即戦力となる人材育成を目指す。アルビレックス新潟をはじめとし、J1・J2・J3・JFL・地域リーグなどの各クラブのほか、サッカーショップやスポーツショップ、フットサル場やスポーツ施設、出版社など多数のインターンシップを在学中に実施する。また、サッカー業界に限らず一社会人としての人間力を講義・実習を通して向上させ、教養を身につける。
成績評価の基準・方法
(概要) <b>■</b> 各授業科目において、出席率・授業態度・取組姿勢・提出物・レポート・実技試験を相対的に評価する。 <b>■</b> 成績評価基準は、A(優：80 点以上)・B(良：70 点以上)・C(可：60 点以上)・D(不可：59 点以下)とする。なお D 評価は不可(不合格)となるため、追試験が課せられる。 <b>■</b> 各授業科目において出席率が 80%以下の場合には H 評価(保留)となる。
卒業・進級の認定基準
(概要) <b>■</b> 進級あるいは卒業を認定するためには以下の要件を全て満たしている必要がある。 1) 出席率 進級基準：各学期の用出席時間数の 80%以上(各教科)出席していること 卒業基準：各学科の用出席時間数の 80%以上(各教科)出席していること 2) 単位取得基準 進級基準：一年間の必要科目の単位を全て取得していること 卒業基準：各学科の必要科目の単位を全て取得していること
学修支援等
(概要) <b>■</b> クラス担任制 <b>■</b> クラス担任以外の教員による面談等を実施(副任・学科主任等)

<ul style="list-style-type: none"> <li>■保護者との連携構築（保護者宛に活動報告書を送付、電話連絡等）</li> <li>■スクールカウンセラーによるカウンセリング制度</li> </ul>
--

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
22人 (100%)	0人 (0%)	22人 (100%)	0人 (0%)
(主な就職、業界等) ■プロサッカークラブ ■一般企業			
(就職指導内容) ■求人情報提供 ■就職面談実施 ■就職試験対策実施（筆記試験対策・面接試験対策）			
(主な学修成果（資格・検定等）) ■JFA スポーツマネージャーズカレッジサテライト講座			
(備考)（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
50人	2人	4.0%
(中途退学の主な理由) ■経済的理由、学習意欲低下による		
(中退防止・中退者支援のための取組) ■個人面談を定期的実施 ■保護者との連携（電話連絡等） ■学科ミーティングで学生状況を全体で共有（議事録作成）		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
文化・教養		文化・教養専門課程	コーチ・審判専攻科	平成 23 年文部科学大臣告示第 166 号	—		
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2 年	昼	3008 時間	1152 時間	0 時間	1440 時間	0 時間	416 時間
			3008 単位時間				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
40 人		30 人	0 人	3 人	2 人	5 人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）	
<p>（概要）</p> <p>■指導者養成インストラクターによる指導や、プロの現場へのインターンシップにより、ライセンスを取得し、即戦力となるコーチ・レフェリーの育成を目指す。JAPAN サッカーカレッジには日本サッカー協会公認インストラクターが常駐しているため、日本サッカー協会公認 C 級コーチ講習会を校内で開催することができる。サッカー専攻科や女子サッカー専攻科／研究科、さらには男女ともにインターハイ・全国選手権大会に出場経験のある強豪 開志学園 JSC 高等部（JAPAN サッカーカレッジ高等部）のチームに帯同し、男女・社会人・高校生と性別や年齢に応じたコーチング方法を多くの指導者より直接学ぶことができる。また、レフェリー育成においては、在学中に 2 級審判員取得を目指す。ライセンス取得に直結したカリキュラムにより、2 級・3 級合わせて毎年多くの資格取得者を輩出しており、また、アルビレックス新潟のトレーニングマッチや都道府県リーグや高円宮杯など数々の試合に審判員として実習経験を積む。また、サッカー業界に限らず一社会人としての人間力を講義・実習を通して向上させ、教養を身につける。</p>	
<p>成績評価の基準・方法</p> <p>（概要）</p> <p>■各授業科目において、出席率・授業態度・取組姿勢・提出物・レポート・実技試験を相対的に評価する。</p> <p>■成績評価基準は、A(優：80 点以上)・B(良：70 点以上)・C(可：60 点以上)・D(不可：59 点以下)とする。なお D 評価は不可（不合格）となるため、追試験が課せられる。</p> <p>■各授業科目において出席率が 80%以下の場合には H 評価（保留）となる。</p>	
<p>卒業・進級の認定基準</p> <p>（概要）</p> <p>■進級あるいは卒業を認定するためには以下の要件を全て満たしている必要がある。</p> <p>1) 出席率  進級基準：各学期の用出席時間数の 80%以上（各教科）出席していること  卒業基準：各学科の用出席時間数の 80%以上（各教科）出席していること</p> <p>2) 単位取得基準  進級基準：一年間の必要科目の単位を全て取得していること  卒業基準：各学科の必要科目の単位を全て取得していること</p>	
学修支援等	

<p>(概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ クラス担任制</li> <li>■ クラス担任以外の教員による面談等を実施（副任・学科主任等）</li> <li>■ 保護者との連携構築（保護者宛に活動報告書を送付、電話連絡等）</li> <li>■ スクールカウンセラーによるカウンセリング制度</li> </ul>
---

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
7人 (100%)	0人 (0%)	6人 (85.7%)	1人 (14.3%)
<p>(主な就職、業界等)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ プロサッカークラブ（指導者）</li> <li>■ 一般企業（審判活動）</li> </ul>			
<p>(就職指導内容)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 求人情報提供</li> <li>■ 就職面談実施</li> <li>■ 就職試験対策実施（筆記試験対策・面接試験対策）</li> </ul>			
<p>(主な学修成果（資格・検定等）)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 日本サッカー協会公認C級コーチライセンス</li> <li>■ 日本サッカー協会公認2級審判員</li> </ul>			
<p>(備考)（任意記載事項）</p>			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
25人	3人	12.0%
<p>(中途退学の主な理由)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 経済的理由・精神疾患による</li> </ul>		
<p>(中退防止・中退者支援のための取組)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 個人面談を定期的実施</li> <li>■ 保護者との連携（電話連絡等）</li> <li>■ 学科ミーティングで学生状況を全体で共有（議事録作成）</li> </ul>		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
文化・教養		文化・教養専門課程	サッカーコーチ研究科	—	平成23年文部科学省告示第170号		
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
4年	昼	5376 時間	1728 時間	0 時間	2976 時間	0 時間	672 時間
			5376 単位時間				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
50人		19人	0人	3人	2人	5人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）						
（概要）						
<p>■1・2年次で基礎を完全に身につけ、3・4年次は現場実習・インターンシップがメインとなるカリキュラムを構築している。サッカー協会、Jクラブとの強い連携を活かし、アシスタントコーチとして外部チームに帯同し経験を積む。日本サッカー協会ナショナルトレセンコーチのアシスタントや、北信越トレセンや日本サッカー協会公認B級コーチ養成講習会などに参加するなど、サッカー協会関係の仕事も経験することができ、トップレベルの指導法について学ぶことができる。4年制学科となるため、卒業と同時に「高度専門士」を取得することができ、大学院への進学も可能となる。また、サッカー業界に限らず一社会人としての人間力を講義・実習を通して向上させ、教養を身につける。</p>						
成績評価の基準・方法						
（概要）						
<p>■各授業科目において、出席率・授業態度・取組姿勢・提出物・レポート・実技試験を相対的に評価する。</p> <p>■成績評価基準は、A(優：80点以上)・B(良：70点以上)・C(可：60点以上)・D(不可：59点以下)とする。なおD評価は不可（不合格）となるため、追試験が課せられる。</p> <p>■各授業科目において出席率が80%以下の場合にはH評価（保留）となる。</p>						
卒業・進級の認定基準						
（概要）						
<p>■進級あるいは卒業を認定するためには以下の要件を全て満たしている必要がある。</p> <p>1) 出席率 進級基準：各学期の用出席時間数の80%以上（各教科）出席していること 卒業基準：各学科の用出席時間数の80%以上（各教科）出席していること</p> <p>2) 単位取得基準 進級基準：一年間の必要科目の単位を全て取得していること 卒業基準：各学科の必要科目の単位を全て取得していること</p>						
学修支援等						
（概要）						
<p>■クラス担任制</p> <p>■クラス担任以外の教員による面談等を実施（副任・学科主任等）</p> <p>■保護者との連携構築（保護者宛に活動報告書を送付、電話連絡等）</p> <p>■スクールカウンセラーによるカウンセリング制度</p>						

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
3人 (100%)	0人 (0%)	3人 (100%)	0人 (0%)
(主な就職、業界等) ■プロサッカークラブ（指導者） ■一般企業			
(就職指導内容) ■求人情報提供 ■就職面談実施 ■就職試験対策実施（筆記試験対策・面接試験対策）			
(主な学修成果（資格・検定等）) ■日本サッカー協会公認C級コーチライセンス ■日本サッカー協会公認女子1級審判員 ■日本サッカー協会公認2級審判員			
(備考)（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
20人	2人	10.0%
(中途退学の主な理由) ■進路変更、精神疾患による		
(中退防止・中退者支援のための取組) ■個人面談を定期的実施 ■保護者との連携（電話連絡等） ■学科ミーティングで学生状況を全体で共有（議事録作成）		

②学校単位の情報

a) 「生徒納付金」等

学科名	入学金	授業料 (年間)	設備費 維持費	昼食費	諸経費	合計
サッカー専攻科 (1年次)	100,000円	730,000円	490,000円	99,000円	490,000円	1,909,000円
サッカー専攻科 (進級年次)	—	730,000円	490,000円	99,000円	390,000円	1,709,000円
女子サッカー専攻科 (1年次)	100,000円	500,000円	390,000円	99,000円	490,000円	1,579,000円
女子サッカー専攻科 (進級年次)	—	500,000円	390,000円	99,000円	390,000円	1,379,000円
サッカートレーナー専攻科 (1年次)	100,000円	500,000円	390,000円	99,000円	390,000円	1,479,000円
サッカートレーナー専攻科 (進級年次)	—	500,000円	390,000円	99,000円	390,000円	1,379,000円
マネージャー・トレーナー科 (1年次)	100,000円	730,000円	490,000円	99,000円	440,000円	1,859,000円
マネージャー・トレーナー科 (進級年次)	—	730,000円	490,000円	99,000円	540,000円	1,859,000円
サッカー研究科	100,000円	150,000円	200,000円	99,000円	490,000円	1,039,000円
サッカービジネス科 (1年次)	100,000円	730,000円	490,000円	99,000円	440,000円	1,859,000円
サッカービジネス科 (進級次)	—	730,000円	490,000円	99,000円	490,000円	1,809,000円
コーチ・審判専攻科 (1年次)	100,000円	730,000円	490,000円	99,000円	490,000円	1,909,000円
コーチ・審判専攻科 (進級次)	—	730,000円	490,000円	99,000円	290,000円	1,609,000円
サッカーコーチ研究科 (1・2年次)	100,000円	730,000円	490,000円	99,000円	460,000円	1,879,000円
サッカーコーチ研究科 (3・4年次)	—	300,000円	280,000円	99,000円	540,000円	1,219,000円
全学科共通	入学検定料					20,000円
修学支援 (任意記載事項)						
各種奨学金制度・各種教育ローン		<a href="http://cupsnet.com/contact/guidelines/scholarship/">http://cupsnet.com/contact/guidelines/scholarship/</a>				

b) 学校評価

自己評価結果の公表方法 (ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) 学校 HP 上で公表 <a href="https://www.cupsnet.com/pdf/r01_01gh.pdf">https://www.cupsnet.com/pdf/r01_01gh.pdf</a>		
学校関係者評価の基本方針 (実施方法・体制) JAPAN サッカーカレッジが作成した「学校自己評価報告書」について、各評価項目における現状、課題と改善策について報告をする。また、あわせて自己評価の参考資料となる、教職員・学生アンケートの集計結果や、学校運営状況についてまとめた資料に基づいて学校運営の様々な状況について報告をし、各評価委員から自己点検・評価報告に対する意見を頂き、それを今後の学校運営に参考活用する。 業界団体委員として1名、企業等委員として1名、学校側参加者として、顧問、学校長、教務部長、事務局長、各学科主任 (計 9 名) が出席する学校関係者評価委員会を年1回開催 (毎年9月頃) する。		
学校関係者評価の委員		
所属	任期	種別
一般社団法人 新潟県下越地区サッカー協会理事	2019年11月1日～ 2021年10月31日 (2年)	業界団体委員
株式会社 アルビレックス新潟 育成アカデミーダイレクター	2019年11月1日～ 2021年10月31日 (2年)	企業等委員
学校関係者評価結果の公表方法 (ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) 学校 HP 上で公表 <a href="http://www.cupsnet.com/pdf/h28_01.pdf">http://www.cupsnet.com/pdf/h28_01.pdf</a>		
第三者による学校評価 (任意記載事項)		

c) 当該学校に係る情報

(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) 学校ホームページ <a href="http://cupsnet.com/">http://cupsnet.com/</a> 学校概要 <a href="http://www.cupsnet.com/pdf/outline.pdf">http://www.cupsnet.com/pdf/outline.pdf</a>
---